

ばか苗病に対するタフブロック(生物農薬)の防除効果は出芽時の温度に影響される

福島県農業総合センター 生産環境部

1 部門名

水稲 - 水稲 - 病害虫防除

2 担当者

鈴木洋平・山田真孝

3 要旨

特別栽培など化学合成農薬を低減する栽培法の普及拡大とともに、化学合成農薬に代わる水稲種子消毒剤として、生物農薬への期待が大きくなっている。その一方で、化学合成農薬の低減がばか苗病の発生リスクを高める危険性が指摘されている。そこで、生物農薬の中で、比較的低温でも効果の変動が小さい薬剤とされているタフブロックについて、出芽時の温度がばか苗病の防除効果に及ぼす影響について検討した。

- (1) 1区300粒(健全295粒、ばか苗病種子5粒)に対して、タロマイセス フラバス水和剤(タフブロック)、チウラム・ベフラゾエート水和剤(ヘルシードTフロアブル)を供試し、出芽温度28、10~20、5~15の3条件下で、発病苗割合と防除価を比較した。
- (2) ヘルシードTフロアブルのばか苗病に対する防除効果は、いずれの温度条件下でも防除価が高く、安定した効果が認められた。
- (3) タフブロックでは、出芽温度28の防除価が100であったが、10~20では89.5、5~15では57.1となり、出芽温度が下がるにつれて防除効果も低下する傾向がみられ、出芽時の温度により効果が不安定になった。
- (4) タフブロックを使用する場合、低温に遭遇する可能性がある無加温での出芽は、ばか苗病の防除効果が不安定になるリスクが高まることから、加温出芽が望ましい。

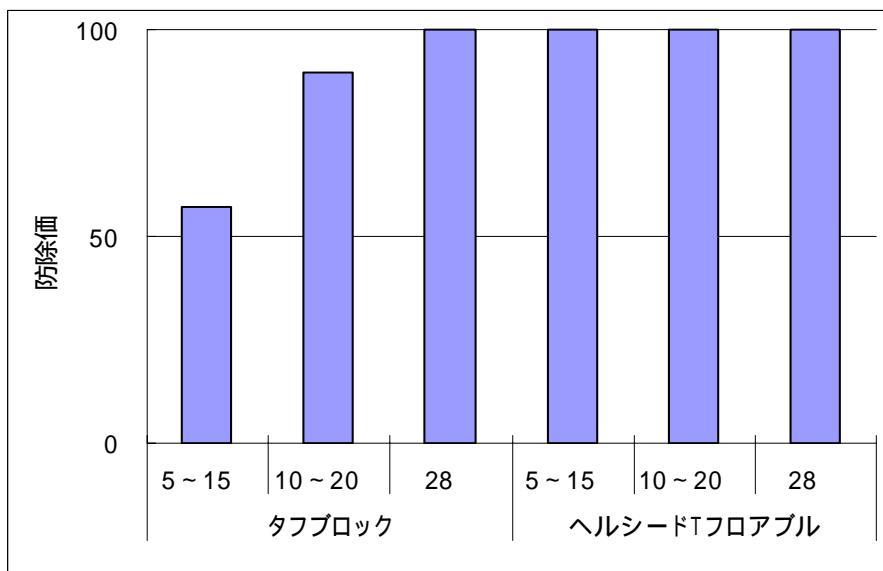


図 出芽温度低下に伴うタフブロックのばか苗病防除価の低下

注) タフブロック、ヘルシードTフロアブルを実用濃度で供試し、出芽温度を28(24時間)、10(16時間)/20(8時間)、5(16時間)/15(8時間)の3条件下で発病苗数を調査し、無処理区の発病苗割合から防除価を算出した。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度農業総合センター試験成績概要(2009)